

平成 26 年 11 月 13 日

南の風 90

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

関東ミニバスケットボール大会神奈川県予選が終わりました。結果は下記のようにになりました。

関東大会出場を決めた、男女4チームの選手並びに関係者の皆様、おめでとうございます。関東大会での活躍を心より願っております。

《男子準決勝》

荇田南 26 — 25 川上北
鶴久保 61 — 55 原三ツ境

《女子準決勝》

柿生 74 — 18 小菅ヶ谷
明治 14 — 49 榎が丘

《男子決勝》

荇田南 74 — 57 鶴久保

《女子決勝》

柿生 37 — 28 榎が丘

11月2日の当日、自チームの公式戦があり、残念ながらゲーム観戦ができませんでした。観戦した方の感想を伺うと、どのゲームも熱戦だったということでした。特に男子準決勝の荇田南対川上北戦は最後の最後まで大接戦だったようです。また、女子決勝の柿生対榎が丘戦も、後半接戦となったようですが、最後に柿生が振り切ったとのことでした。

決勝に出場した男女4チームは、平成27年1月10日より群馬県前橋市で行われる、第36回関東ミニバスケットボール大会に出場します。改めまして、4チームの選手並びに関係者の皆様、関東大会でのご健闘を心よりお祈り致します。

群馬県での関東大会と言えば、思い出すことがあります。前チームの常盤台の時、第3回関東大会で優勝させていただいたことです。(手前味噌で申し訳ありません。)あの時は、高崎市の浜川体育館でした。たいへん懐かしく感じます。

さて、関東大会神奈川県予選を観戦したミニバスの指導者の方から、次のような質問がありました。

「よく、接戦になった時はコーチの力量が試されるといわれますが、練習の時にどんなことに気を付けたらいいのでしょうか。」というものでした。

南の風の85～87号に、接戦になったゲームシュチュエーションについては書きましたので参考にしてください。お尋ねは『練習の時』ということでした。私の考えを書きます。

ミニバスに限らず、ゲームに表れるすべての状況を想定して練習することは不可能です。ただご指摘のような、接戦(1～3、4点とします。)を争うような状況は特殊とっていいでしょう。こういう場面は、取り上げて練習することが必要です。いつも言いますように、ミニバスの選手は経験値が少ないわけです。公式のゲームで接戦の場面に遭遇した時に、コーチが「こうしろ、ああしろ」と口でいっても、すぐに身体は動かないと思います。ですから、練習の時に「今1点負けていて、残り15秒」とか、「3点勝っていて、残り30秒」とか具体的な場面設定の中で、追い込み練習が必要です。大切なことは、選手の心理状態を接戦仕様にすることです。また、選手が緊張状態の中でも、状況判断ができるようにしておくことです。練習の中で、指導を交えて20分程度を何回かやっておくといいです。

次号で、もう少し具体的な練習方法について触れたいと思います。